

# ハンドベル演奏指導者の練習の場における教育的配慮について

## Educational Considerations of Handbell Instructors in their Teaching of Handbell Performance

岡田 泰子  
Yasuko OKADA

抄録：ハンドベル指導者がハンドベル演奏の指導上配慮している課題について調べた。調査としてはハンドベル指導における教育的配慮を自由に書いてもらった。その結果、ハンドベル演奏指導において、演奏者に対する「協力・協調」、「達成感」、「責任感」、「一体感」、「思いやり」などの言葉で表されるように、特に行動的側面に配慮していることが明らかになった。このことは、先の報告におけるハンドベル演奏体験により学生自身どのように変容したか、また卒業生について調べ明らかにした「他者への配慮」とも関連すると考えた。

キーワード：ハンドベル、指導者、教育的配慮、KJ法、他者への配慮

### I. はじめに

先の報告では、ハンドベルの演奏体験によって学生が自己肯定感を含め多面的に変容することが明らかになった(岡田 2014)。具体的には、「ハンドベルの技能」、「音楽的技能」、「身体的能力」、「他者への配慮」、「音楽的興味関心」、「自分の行動特性」の変容を挙げる学生が多くみられた。中でも「他者への配慮」について、「仲間」や「協力」、「協調性」などのキーワードが挙がった。また、「ハンドベル」演奏体験が社会人生活に及ぼす影響についても明らかにした(岡田 2016)。この報告では、「他者への配慮」などが卒業後においても脈々と継続され、卒業後もハンドベル演奏体験の機会を得ていること、職場においてハンドベル指導の経験がある卒業生が存在することも明らかとなった。このようなことから、ハンドベル演奏体験は、卒業後において多面的な教育効果が期待できると考えられた。本研究では、ハンドベルの演奏体験が卒業後の社会生活にも反映されることからハンドベル演奏の指導者が指導上にどのようなことを配慮しているかを明らかにし、さらに卒業後どのような配慮が特に影響するのかを考察することにした。このことにより、一層効果的なハンドベルの指導の在り方を探索できると考えた。

### II. 方法

1. **調査協力者** 全国の教育機関、教会、一般サークルで活動している、ハンドベル指導者37名を調査の協力者とした。
2. **調査期日** 調査は、2016年8月12日から2016年9月7日に実施した。
3. **調査内容** 調査内容は、一般属性に関する調査内容としては、年齢、性別、指導歴、指導場所やハンドベルの音域について尋ねた。ハンドベル演奏指導における教育的配慮に関する調査内容は、楽器を中心とした内容に分けた。楽器を中心とした内容では、読譜、選曲(プログラム)、ベルアサイメント、演奏本番(コンサートなど)についての配慮事項、演奏者や指導者を中心とした内容では、演奏者としての期待、ハンドベル演奏の魅力、指導者としての喜びを感じる時、指導上で苦勞、演奏指導により形成される望ましい人間的成長面について自由に記述することを求めた。その他の指導上の工夫についても自由に書くことを依頼した。
4. **調査手順** 調査は郵送とメール配信の二通りで実施した。郵送による調査では、調査用紙と返送用封筒を同封して、各協力者に送付した。メール配信による調査では、調査用紙を送信し、回答された調査用紙を返信してもらった。

### Ⅲ. 倫理的配慮

本調査に関して、調査用紙発送に先立って本調査への協力を求めた。その際、協力については強制でなく、当該者の自由である旨を説明した。なお当該者が特定できないよう、また不利益が生じないように配慮することを伝えた。最終的には調査用紙の返送をもって当該者の調査協力の意思を確認したこととした。本調査は所属大学倫理委員会の許可を得た。

### Ⅳ. 結果と考察

#### 1. 調査回答協力者の一般属性

調査用紙郵送数は37名で、返送された回答調査用紙は19名分であった。回収率は51.3%であった。

##### (1) 年齢及び性別

回答協力者の年齢区分別人数を表1に示した。70歳以上以外の年齢区分では20%台であった。

表1 回答協力者の年齢区分別人数

年齢区別	30~39歳	40~49	50~59	60~69	70~79	無回答
人数(%)	4名(21)	4(21)	5(26)	4(21)	1(0.5)	1(0.5)

また性別人数は男性が5名、女性が14名であった。

##### (2) ハンドベル指導歴

ハンドベルの指導歴については、10年未満が1名、10年から20年未満が8名、20年から30年未満が7名、30年以上が2名、不明が1名であった。

##### (3) 指導場所

ハンドベルの指導場所は教会1名、学校13名、幼稚園2名、その他(社会人チームなど)16名であった(複数回答)。

##### (4) ハンドベルの音域

2オクターブが2チーム、3オクターブが7チーム、3.5オクターブが2チーム、4オクターブが8チーム、4.5オクターブが2チーム、5オクターブが12チーム、6オクターブが1チーム、7オクターブが1チーム、不明が1チームであった。最も多かったのは5オクターブの12チームで、次いで4オクターブの8チームであった。他のオクターブは1チームか、2チームであった。複数チームの指導者は19名中、9名であった。

#### 2. ハンドベル指導における教育的配慮

回答者19名のハンドベル指導における教育的配慮に関する調査内容ごとに分析した。調査のうち、当該の調査内容ごとに記述された文章から、キーワードとみなされる言葉を選び出し、KJ法を用いて分類した。

その結果から、「ハンドベルの技能」、「音楽的技能」、「音楽的な興味・関心」、「行動特性」、「他者への配慮」「指導の工夫」の6つの項目に分類できた。これらの6つの分類は、「ハンドベルを演奏するための技能面」と「ハ

ンドベルの演奏指導により形成される望ましい人間的成長面」の2つの大分類にまとめた。前者として、「ハンドベルの技能」、「音楽的技能」、「音楽的な興味・関心」また、ハンドベルを指導することにより、期待できる人間的成長面として、「行動特性」、「他者への配慮」、「指導の工夫」がそれぞれ該当した。

#### (1) 楽器を対象にした配慮

##### 読譜について

音を読みとり、リズムを理解するためのソルフェージュや楽典、また音を確実に出すために、楽譜に丸つけ、色づけ、加工する記載がみられた。表2に示したように、これらのキーワードをKJ法で整理したところ、「音楽的技能」と「指導の工夫」の2つの項目に分類することができた。これらは、ハンドベルを演奏するために不可欠な、読譜力を育てるための要素であると考えた。

表2 読譜に関するキーワードの分類

分類項目(総数)	抽出されたキーワードの例
音楽的技能(6)	ソルフェージュ、楽典、リズム、音名書き
指導の工夫(8)	丸つけ、歌詞つけ、予習、色づけ、加工(数字)

##### 選曲(プログラム)について

演奏曲を選曲するにあたり、演奏者の演奏レベルや技術の向上など、演奏者自身の演奏スキルを目指す記載、加えて達成感や演奏者で選曲を決めるなど、演奏者自身の主体性を目指す記載、また曲想やバランスなど、楽曲そのものに対する記載、さらには、聴く側を想定し、プログラム構成を配慮する記載など、指導者の多岐にわたる考えが示された。表3で示したように、「ハンドベルの技能」、「音楽的技能」、「音楽的な興味・関心」、「行動特性」、「他者への配慮」と5項目に分類することができた。選曲については演奏者と聴衆の両者に対する配慮が必要であると考えた。

表3 選曲に関するキーワードの分類

分類項目(総数)	抽出されたキーワードの例
ハンドベルの技能(7)	奏法、難易度、背伸び、簡単、レベル、技術の向上、ダイナミック
音楽的技能(2)	テンポ感、曲想
音楽的な興味・関心(22)	讚美歌、楽しさ、欲び、静と動、剛と柔、バランス、バラエティー、クワイア、礼拝、フェスティバル、宗教曲、メイン、オープニング、オリジナル、ゆっくり、早い、音楽作り、日本の曲
行動特性(4)	達成感、やりたい、決める、やり遂げる
他者への配慮(11)	演奏する場所、聴いて下さる方々、知っている、チームワーク、希望を聞く、無駄がない、ニーズ、子ども向け、チームのカラー、演奏先の方々、イベント、メンバー

##### ベルアサイメントについて

アサイメント(音の割り当て)では、個々のレベルやリズム感、体力など、またやる気や選択など、演奏者自

身に関する記載がみられた。表4に示すように、アサイメントに関連するキーワードは「ハンドベルの技能」、「音楽的技能」、「音楽的な興味・関心」、「行動特性」、「他者への配慮」の5項目に分類することができた。具体的なキーワードとして、経験者と初心者や、不公平にならないなど、演奏者ひとりひとりの実力や、公平感を示す言葉が挙がった。これらのことから、個々の演奏者の能力や要望を尊重する配慮が必要であると考えた。

表4 ベルアサイメントに関するキーワードの分類

分類項目(総数)	抽出されたキーワードの例
ハンドベルの技能(5)	経験者、初心者、能力、レベル
音楽的技能(2)	リズム感、譜読み
音楽的な興味・関心(3)	楽しさ、やる気、やりたい気持ち
行動特性(3)	決める、選ぶ、選択
他者への配慮(16)	体力、体の大きさ、背の順、個性、各々の力、年齢、不公平にならない、固定、移動、気配り、幅広く、固定化、個人の特徴、希望

演奏本番（コンサートなど）について

表5に示すように、抽出されたキーワードは「ハンドベルの技能」、「音楽的技能」、「音楽的な興味・関心」、「行動特性」、「他者への配慮」の5項目に分類することができた。練習の成果を発表する、コンサートなどの本番では、それまでの練習で培った技能的な内容の記載よりも、演奏者がリラックスすることや、聴衆者側への心遣いなど両者に対する配慮の記載が多く見受けられた。中でも、演奏者が落ち着いて本番に臨めるように、精神的な配慮が特徴的であると考えた。

表5 演奏本番（コンサートなど）に関するキーワードの分類

分類項目(総数)	抽出されたキーワードの例
ハンドベルの技能(2)	体験、奏法
音楽的技能(1)	表現豊か
音楽的な興味・関心(3)	ドラマ、聖書、讃美歌
行動特性(21)	祈り、楽しむ、心を込める、感謝、笑顔、リラックス、落ち着いて、主体的、サポートタイプ、気持ちを込める、自信、自主練、反省会
他者への配慮(15)	聴いて下さる方々、観客、聴衆、年齢層、知っている、成長、全員、段取り、チーム、導線、メンバー

(2) 演奏者、指導者を中心とした配慮

演奏者としての期待

先の(1)で述べたことと同様に、演奏者や共演仲間への技術的な向上を期待する内容の記載よりも、忍耐、協調性や思いやりなどの人間としての成長を願う記載が多

く見受けられた。表6に示すように、関連するキーワードは、「ハンドベルの技能」、「音楽的技能」、「音楽的な興味・関心」、「行動特性」、「他者への配慮」の5項目に分類することができた。ハンドベル演奏は一人では演奏が不可能であり、チームワークで演奏する楽器であることからこのような記載がみられたことは、教育的配慮に役立つ楽器であることがあらためて確認できた。

表6 演奏者としての期待に関するキーワードの分類

分類項目(総数)	抽出されたキーワードの例
ハンドベルの技能(1)	レベル
音楽的技能(4)	音楽的な表現、聴く耳、音楽的な音
音楽的な興味・関心(1)	曲の理解
行動特性(18)	考える、責任感、礼儀、嫌な仕事も黙々と行う、感じる力、探求心、積極的、協調性、忍耐、自発性、主体的、祈り、信仰理解
他者への配慮(13)	聴き合う、思いやり、優しさ、仲間、一人ひとり、助け合う、心を合わせる、あいさつ、チーム、成長、人間関係、気配り、自分勝手

ハンドベル演奏の魅力について

ハンドベル指導者の立場から、演奏者たちが心を合わせることや気持ちを一つにすることなど、演奏者に向けた記載が多く見受けられた。表7に示すように、関連するキーワードは「ハンドベルの技能」、「音楽的技能」、「音楽的な興味・関心」、「行動特性」、「他者への配慮」の5項目に分類することができた。ハンドベルの指導者は音楽づくりをし、演奏のまとめ役である。決して自ら音を出すことはないことから、全体の音楽づくりでは客観的な立場から演奏者一人ひとりに目配り、気配り、心配りしながら、かつ音楽づくりしながら、人間的な成長を促す楽器に魅せられていると言えよう。

表7 ハンドベル演奏の魅力に関するキーワードの分類

分類項目(総数)	抽出されたキーワードの例
ハンドベルの技能(6)	美しいハーモニー、音色、清澄な響き、レベル、神様を賛美する楽器
音楽的技能(4)	リズム、音楽表現、アンサンブル、フレーズ
音楽的な興味・関心(4)	パズルピース、教育楽器、いやされる
行動特性(3)	自分の存在の大切さ、自信、責任
他者への配慮(21)	みんなの心が一つ、仲間、全員、協力、成長、気持ちが一つ、心を合わせる、助け合う、聴く人、慰め、励まし、役割、メンバー、一体感、人間的なつながり、チーム、お互い、幅広く、意識

指導者としての喜びを感じるタイミングについて

ハンドベル演奏指導により、演奏者の満足や充実、つながりなど、技能の向上もさることながら、人間的成長

を感じる喜びの記載が多く見受けられた。表8に示すように、関連するキーワードは「音楽的な興味・関心」、「行動特性」、「他者への配慮」の3項目に分類することができた。これらから、指導者は自己満足ではなく、演奏に取り組む過程で、演奏者が演奏に対して、困難を乗り越えるなど、精神的な充実感を感じ、気持ちが満たされることこそが、指導者自身の喜びにつながっているのではないかと考える。

表8 指導者としての喜びを感じる時にに関するキーワードの分類

分類項目(総数)	抽出されたキーワードの例
音楽的な興味・関心(3)	楽しさ、幸せ、快い
行動特性(11)	満足、乗り越える、力を合わせる、練習、やる気、充実、笑顔、一生懸命、遣り甲斐、やり切った
他者への配慮(20)	聴いて下さった方々、仲間、息、成長、気持ちの一つ、チーム、一体化、心がひとつ、全員、お互い、交わり、関わり、つながり、奉仕、メンバー、チーム、一緒

指導上の苦勞について

演奏指導においては、リズムや楽譜を読むことなどの技能面、また責任感や練習時に全員が揃わないことなど、演奏者自身の心構えなどの記載があった。関連するキーワードは表9に示すように、「ハンドベルの技能」、「音楽的スキル」、「行動特性」、「他者への配慮」の4項目に分類することができた。ハンドベル演奏では演奏者一人ひとりに担当音が割り振られており、周囲でカバーすることがほぼ不可能である。したがって、個々の技能面が顕著に露呈される特性がある。それ故に、技術面においても、全員の指導とともに、演奏者個々の能力に対応しながら指導することも不可欠である。また、演奏者が一人でも欠けてしまうと演奏に支障をきたすためにメンバーの一員としての自覚と責任を持たせて演奏者の一人としての役割を果たさせることが重要である。演奏指導者は技能面や行動面ともに、苦勞していることが推察できた。

表9 指導上の苦勞に関するキーワードの分類

分類項目(総数)	抽出されたキーワードの例
ハンドベルの技能(6)	力不足、アサインメント、選曲、音の出し方、美しい響き、指導
音楽的スキル(3)	リズム、音価、楽譜が読めない
行動特性(7)	体力、時間の確保、場所の確保、私語、個性、向上、責任感
他者への配慮(7)	メンバー確保、揃わない、保護者の思い、子どもの思い、関わり、メンバー不足、部員集め

演奏指導により形成される望ましい人間的成長面(人間像)

リズムの理解や音楽を好きになるなど、音楽技能面での記載以上に、努力や助け合い、挨拶をするなど、人間的な成長を期待する記載が圧倒的に多かった。関連するキーワードは表10に示すように、「音楽的スキル」、「音楽的な興味・関心」、「行動特性」、「他者への配慮」の4項目に分類することができた。ハンドベル指導者によるハンドベルによる演奏者の人間的成長への期待は大きいと推察された。また、演奏者同士のチームワークを大切にしたいという願いがうかがえる。教育的配慮の観点からハンドベル演奏を指導する指導者が多いと言える。

表10 演奏指導により形成される望ましい人間的成長面に関するキーワードの分類

分類項目(総数)	抽出されたキーワードの例
音楽的スキル(1)	リズム
音楽的な興味・関心(3)	音楽を好きになる、アンサンブル、美しい音楽
行動特性(16)	責任感、協調性、頭をつかう、使命感、謙虚さ、乗り越えていく力、主体的、リーダー、慕われる人、努力、忍耐強さ
他者への配慮(32)	お互い、心を合わせ、一人ひとりが大切な存在、協力、人の気持ち、周囲のことに敏感、助け合う、人格尊重、平和主義、仲間、チーム、気の利いた、輪を乱さない、思いやり、あいさつ、成長、支える、周りの方、相手への信頼、聞いて下さる人、グループ、奉仕、チーム

その他の指導上の工夫について

ハンドベルの演奏では、曲のイメージを絵にしたり、体づくりを行ったりするなど演奏者の音楽への理解や、精神的、身体的な配慮の記載が多く見受けられた。関連するキーワードが表11に示すように、「ハンドベルの技能」、「行動特性」、「指導の工夫」の3項目に分類することができた。ハンドベル演奏指導者は、演奏者に音楽の設計図を提示し、それを演奏者と共有する使命があると考えられている。音楽的な素養などが様々である演奏者に対し、楽曲の理解、ハンドベルの奏法の理解を深化させるために、指導者はあらゆる工夫を施していることがうかがえる。

表11 その他の指導上の工夫に関するキーワードの分類

分類項目(総数)	抽出されたキーワードの例
ハンドベルの技能(1)	美しい音、神様を賛美する
行動特性(4)	責任、自主性、時間を大切に、ベル磨き
指導の工夫(6)	曲のイメージを絵にする、少しの時間も無駄にしない、緊張することを想定したプチコンサート、鏡を見ながら振る、体づくり、歴史

### 3. 感想文に反映された指導者の教育的配慮

前項では、KJ法によりキーワードから6つの分類項目を抽出した。しかしハンドベル指導者の教育的配慮について、協力者の原文のままの記述文により検討することにした。その際、前項で示した抽出された6つの分類項目を、(1) 音楽的側面(ハンドベル技能、音楽的技能、音楽的な興味・関心)、(2) 行動的側面(行動特性、他者への配慮)、(3) 指導的側面(指導上の工夫)、の3つの分類項目に再整理した。

3つの分類理由としては、指導者の指導目的と配慮に則すると考えた。

#### (1) 音楽的側面

音楽的側面に関連する記述文としては次のような例がみられた。

- ・まずはリズムがきちっと取れるようにする。とにかく続く所までやってみて、1・2回全体を通してみる。曲の構成を知らせ、その日の目標を決めてリズム練習を含めしっかり練習する(指導歴23年 女性)。
- ・学生：楽器演奏経験の有無。基本2音担当なので、右手左手それぞれの音の楽譜上の場所(位置)、拍子、拍(音符の長さ)Tempoなど、かなり細かく教え、譜面上わからないことがないようにする。大人：音符の長さ、休符の長さ、Tempoなど、正確に譜を読むことを心掛ける(指導歴25年 女性)。
- ・学生：演奏目的、練習できる時間(期間)に長さを考えながら、少し背伸びをさせる曲と、学生好みの楽しめる曲など、組み合わせを考え、飽きないようにする。大人：演奏目的に合わせ、全体のバランスを考え、本番に向かって楽しく演奏しながら、技術の向上もはかれるようにする(指導歴25年 女性)。
- ・礼拝なのか普通のコンサートなのかなどといった演奏する場、子供もいるのかなど対象を考慮して選曲するように努めています。可能な限り、優れた中身のある作品や編曲の楽譜を用いるようにしています。コンサートでは皆が知っている親しみのある曲、バラエティーに富む曲で構成するように心がけています(指導歴30年 男性)。
- ・ゆっくりした曲、早い曲などお混ぜて、子どものチームは演奏者が楽しめる曲を選んでいます(指導歴20年 女性)。
- ・音楽教室では、ソルフェージュの一環としてハンドベルを指導しています。楽典にて、読譜指導をしてハンドベル楽譜にアサインメントによって担当する音を丸付けします。またこの時、リズム読みの1ト2ト3ト4ト・・・の指導も行います(指導歴26年 女性)。

以上のように、ハンドベル演奏が他楽器と異なり、限定した音を担当することにより、音とリズムに集中出来る楽器の特徴から、譜読みやリズム感の理解を進め、より曲のレパートリーの拡充を目指す、音楽的側面への配慮が推察される。

#### (2) 行動的側面

協調性や達成感など行動的側面に触れた記述文としては次のような例がみられた。

- ・低音の音が少なくならないように。フォーインハンドをしなくてすむように。低音はなるべく両手で鳴らせるように。あとは、各自選ぶ時に、低音が続いたり、高音が続いたりしない。怪我等やむを得ない場合は低音にいかない等、お互いが配慮するようにベルわりの時点で指示する(指導歴20年 女性)。

- ・学生：譜読みの能力。体力(体の大きさ)。手の大きさなどに配慮しながら、全体に不公平にならない様にする。大人：基本、どのパートも演奏できるようにしながら、希望のパートを多めにする(指導歴25年 女性)。
- ・両手が見える人と片手が見える人、重いベルが持てる人、軽いベルしか持てない人など個人の特徴に合わせて配慮している。又、メインとなる音階は聞こえる方を配置する(指導歴17年 男性)。
- ・コンサートテーマを決めて、ひとつのドラマを創るようにプログラムすることもあります。また、奏者も観客も一緒に楽しめるよう心がけます(指導歴26年 女性)。
- ・気持ちよく演奏できるように、また、心を込めて演奏するよう声かけをする。感謝の気持ちを持って演奏するように！(指導歴23年 女性)。
- ・一応は、学生の希望を聞き、出来るだけ叶える努力をする。その学年の特徴を活かす or カバー出来るような曲や編曲楽譜を選ぶ。30~40分くらいのプログラムを設定し、メインの曲・オープニングに使えるような曲・子どもの向けの曲等々を考慮し、持ち曲を作る(指導歴23年 女性)。
- ・静と動をバランスよく選ぶ。クワイアの場合は、宗教曲が必須。オリジナルも入れる。あとは、観客の対象者による(指導歴20年 女性)。
- ・演奏先の方々のニーズに合う選曲ができるようにとは思っております(指導歴6年 女性)。
- ・自分達で考えて練習したり、本番のプログラムを考えたりすることができるようになること。お互いの音を聴き合い、美しいハーモニーを奏でることができるようになること(指導歴11年 女性)。
- ・一人では出来ない音楽的な表現。音楽を聴く耳。責任感。礼儀。嫌な仕事(力仕事)も黙々と行う(指導歴23年 女性)。
- ・感じる力です(指導歴10年 女性)。
- ・仲間1人1人の大切さ。自分の存在の大切さ。みんなで心を合わせ、助け合うことの喜び。あいさつ(指導歴20年 女性)。
- ・探求心、指導者の要求に対し、積極的に向き合う気持ち(指導歴25年 女性)。
- ・自分の担当に責任を持つこと、まわりに気配りすること(指導歴18年 女性)。
- ・ハンドベルを通じて、必要とされること、自分への責任感を養ってほしい(指導歴17年 男性)。
- ・メンバー一人でも欠ければ演奏できないことを、普段から意識させています。だからこそ、一人一人を大切に、相手を思いやる気持ちを持てる生徒に育ってほしいと思っています(指導歴不明 女性)。
- ・常に美しい・音楽的な音を求めて向上してほしいこと、協力して曲をつくってほしいことです(指導歴30年 男性)。
- ・他者への配慮、自発性、信仰理解、祈りをもって取り組むこと(指導歴24年 男性)。
- ・舞台までなるべく段差のないようにし、車椅子の方が動きやすい導線をつくる。車椅子の補助もメンバー同士で行わせる(指導歴17年 男性)。
- ・地元での演奏会に招待される機会が増えてきました。1年に15回程度あります。幼稚園や老人施設、また地元でのクリスマス会などです。特に客層を考えて、一緒に歌ってもらえる曲は入れるようにしています。フェスティバルなどの演奏会では、暗譜のできるまで練習し、表現力豊かに演奏できるように心がけます(指導歴不明 女性)。
- ・自信を持って演奏できるように十分練習をしたいのですが、リンガーに必要以上の練習時間を確保しないようにしています。コンサートの後は反省会を行って課題を共有し、次の練習に向かうようにしています(指導歴30年 男性)。
- ・練習通りのことができるように。讃美歌や聖書のことばを想

- いながら音楽を表現できるように(指導歴24年 男性)。
- ・演奏会場によって表現の仕方を工夫(指導歴30年 女性)。
- ・一人ひとりちがう音を担当し、そのみんなの心が一つになることで美しいハーモニーを奏でることができること(指導歴11年 女性)。
- ・なんと言っても、ハンドベル自体の音色の美しさ。リンガー全員が息を合わせないと演奏できないところ。本学の学生の音楽レベルでは、絶対に出来ない高いレベルの経験をすることが出来る。リズムが取れるようになる。音楽が流れて行ったりすることを体感できる(指導歴23年 女性)。
- ・仲間1人1人の大切さ。自分の存在の大切さ。みんなで心を合わせ、助け合うことの喜び。クワイアは、神様を讃美する楽器として用いられている点。普段出会えない人、場所に会える。その場に来ないと練習できない(指導歴20年 女性)。
- ・美しく清澄な響きが、聴く人(もちろんリンガー自身も)の心を慰め励まし勇気づける力を持っていることです(指導歴10年 女性)。
- ・1人では自信がない生徒でも、協力して何かを作り上げることを体験できること(指導歴6年 女性)。
- ・大袈裟ですが、私自身は、人生の中で大切なことは全部ハンドベルの活動を通じて教えてもらったと思っていますので、音楽としての魅力はもちろんですが、人として成長していく上で大事なことを沢山体験できる活動だと考えています。メンバーの皆さんとは、私自身も含めて自分の音や役割に責任をもつこと、困っている人がいないかいつも意識しながら活動することで、お互いの成長を支え合えればと思っています(指導歴20年 女性)。
- ・1つ2つの音がみんなで演奏した時に、パズルピースを合わせていくように楽曲の形になり、音の絵画になるところ(指導歴25年 女性)。
- ・メンバーとの一体感。他の楽器にはない表現方法。音色の美しさ(指導歴20年 女性)。
- ・音色にいやされる所。(演奏者も聴いてくださる方も)(指導歴12年 女性)。
- ・それぞれがお互いに配慮して演奏するところ(指導歴18年 女性)。
- ・皆で音のラインをつなぎ、またハーモニーをつくれること(指導歴11年 男性)。
- ・子供から大人、健常者から障害者まで幅広く演奏できること。ハンドベルそのものが教育楽器となること(指導歴17年 男性)。
- ・音の優しさだと思います。また、多数のメンバーで奏でる統一された音楽性のレベルの高さに憧れを感じます(指導歴不明 女性)。
- ・個性のある一人ひとりのリンガーが協力し合って曲をつくっていくこと。演奏を聴いた方から、心に残る演奏だった、癒されたといった声を聞いたとき(指導歴30年 男性)。
- ・リンガーの気持ちが一つになって演奏できる喜びがある(指導歴30年 女性)。
- ・チームで音楽を創ること。名曲や美しいフレーズとの出会い。人間的なつながりが与えられること(指導歴24年 男性)。
- ・お互いが心を合わせ、お互いのできない所を補い合い、一人一人が大切な存在であることに気付くこと(指導歴11年 女性)。
- ・責任感。協調性。みんなで協力して1つの物を創り上げる楽しさを体感する。助け合い。嫌な仕事も率先して行う人。気の利いた人に。輪を乱さない。\*その他いろいろあるけど、求めすぎかな?(指導歴23年 女性)。
- ・仲間1人1人の大切さ。自分の存在の大切さ。みんなで心を合わせ、助け合うことの喜び。あいさつ(指導歴20年 女性)。
- ・協調性や責任感、使命感、(人として自分や周りの人を大事にする)人格尊重や平和主義、(ハンドベルは特別なものではないという)謙虚さ、等は育ってほしい・・・というか大人ばかりですから、備えていてほしいことです(指導歴10年 女性)。
- ・他者との協調性。できないことを協力して乗り越えていく力、相手への信頼、サポートなどを得ていってくれることを期待します(指導歴6年 女性)。
- ・演奏以外にも進んで自分の役割、自分にできる事を見つけ、積極的に行動していく。チームで活動することで、周囲を思いやる心を育む(指導歴25年 女性)。
- ・思いやりの気持ちをお互い持つことにより、すばらしい音楽を全員で奏でることを期待する(指導歴12年 女性)。
- ・自分も他人も大切な存在であることを自覚し行動する(指導歴18年 女性)。
- ・協調性や責任感(指導歴11年 男性)。
- ・難しくてもくじけず、目標に向かって取り組む姿勢を常にもって欲しい。又、仲間を思いやり、助け合いながら成長して欲しい(指導歴17年 男性)。
- ・高校生の場合は他のクラブと同様、人間関係や協力し支え合うこと、自分の意見を理論的に主張できることといったことなどが育つようにしています。これらを通して人間的に成長することを期待しています。大人のチームは仕事・家事・育児を担っている方がほとんどですが、練習に参加することにより、生活がより豊かになり、プラスになることを望んでいます(指導歴30年 男性)。
- ・一人一人が集まってグループを作るので、休まず努力して練習できる人。忍耐強さを育ててくれるのを期待します(指導歴30年 女性)。
- ・卒業後も長くハンドベルに関わってほしい。(ハンドベルでなくても)美しい音楽に心を動かされる人であってほしい。将来への指導者が生まれることを願っている(指導歴24年 男性)。
- ・楽譜が読めない生徒もたくさんいるので、お互い教えあう気持ちを大切にしている(指導歴12年 女性)。
- ・練習を積み重ねてそれが演奏の時にうまく表現できた時(指導歴20年 男性)。
- ・繰り返し練習していると、子どもたち同士が仲良くなっていきます。大人しかった子が輪に入っていると嬉しくなります。「今日は練習しないの?」という声も、こちらのやる気を保ってくれます(指導歴10年 女性)。
- ・曲を完成させた時はもちろん、初心者だった方がいつの間にか立派にリンガーとして成長していることに気付いた時。全員が笑顔で最後のひと振りを終えた瞬間です(指導歴10年 女性)。
- ・全員の気持ちが一つとなって、演奏が心地よく進むこと(指導歴6年 女性)。
- ・卒業しても、まだハンドベルを続けたいと言ってくれる時、そして実際一緒にその方々と、同じチームのメンバーとして演奏できることは本当に嬉しいです。また、色々な事情で活動を共にできないことはありますが、それでもハンドベルが、このチームが好きだと思いつけ、関わりがなくなっていくことは本当に嬉しいことだと感じています(指導歴20年 女性)。
- ・楽曲となり、音の絵画となったチームの演奏を前にしてチームと一体化した時(指導歴25年 女性)。
- ・リンガー達が演奏することによって楽しさ、幸せを感じてくれた時(指導歴20年 女性)。
- ・生徒全員の心がひとつとなり、演奏できた時(指導歴12年 女性)。
- ・できないところができるようになった時、お互いに配慮している様子が見うけられた時、一生懸命練習に取り組んでいる姿をみた時(指導歴18年 女性)。
- ・皆で演奏(会)を成功させたとき(指導歴11年 男性)。

- ・難しい曲をやり切ったとメンバーがほこらしげに笑っている時。本番の演奏を終えた瞬間（指導歴17年 男性）。
- ・ボランティア演奏会時に、観客にメンバーの演奏を褒めていただき、またメンバーも遣り甲斐を感じたであろうと思う時に喜びを感じます（指導歴不明 女性）。
- ・指揮者とリンガーが一体となって演奏できたと感じるとき（指導歴30年 男性）。
- ・教会での演奏等、奉仕者として用いられること。他のチームの指導者や全国の指導者との交わりが与えられること。世界大会では様々な国の方々との出会いがあること。中部支部のハンドベルの輪が広がり、交わりが深められること（指導歴24年 男性）。
- ・楽しく演奏ができたこと。皆が休まず練習ができること（指導歴30年 女性）。
- ・リンガーが自分達で満足のいく演奏をすることができた喜びを共有することができたとき。聴いて下さった方々に喜んでいただくことができたとき（指導歴11年 女性）。
- ・困難を乗り越えようと、仲間と力を合わせて、また仲間の力をかりながら一歩踏み出す瞬間等。そしてその喜びを分かち合える時（指導歴26年 女性）。
- ・演奏時、みんなの息がピタッと合い、お互いにとても快く感じた時。無理に誘った学生から、卒業時に「誘ってくれてありがとう」と言われた時。ベルに関して、いろいろ言っているのを聞いて、あの子がこんなことを言えるようになったと感じた時。ベル大好き人間が育って、卒業後も一緒に演奏していること。OGから、「テレビを見たよ。頑張っているのを見て、私も嬉しかった」という連絡をもらったとき（指導歴23年 女性）。

以上のように記述文数は、3側面中最も多かった。この結果からみても明らかであるようにハンドベル特に行動的側面への著しい影響を及ぼすと言える。行動的側面では、「協力・協調」、「達成感」、「責任感」、「一体感」「思いやり」などがハンドベル指導により培われたと述べていることは注目すべきある。演奏を通して出会う聴衆にも配慮できる点は、特に自覚される側面であると思われる。

### （3）指導的側面

指導的側面に関連する記述文としては次のような例がみられた。

- ・楽譜を使わないため、歌ったり、歌詞を付けたりして、ことばに合わせて、体を使って覚えさせます。繰り返し、地道に練習していきます（指導歴10年 女性）。
- ・ここ2年くらいは、なんと言ってもメンバー確保！に尽きます。経済的に大変な学生が多くわずか週1回の1時間半位も確保できないようです…。心に余裕もないのかも知れません。また、バイト先から、今日どうしても入ってくれと言われたのでと休む学生も多い上に、最近5限授業も多く、全員が揃っての練習時間の確保が難しい。音価の関係も分かっていない学生が多く、リズム練習さえできないような、とても手を取る学生が多くなった（指導歴23年 女性）。
- ・全員が揃わなくてバランスや表現の細かい練習ができない時がある（指導歴20年 男性）。
- ・学生：個々のバランスをとる（全員が同じレベルでは進まない）大人：それぞれの持つ個性、プライドを認め、更にハイレベルの演奏にしていくこと（チームに対する考え、演奏することに対する考え、全ての面でいろいろな考え、思いを持っている）（指導歴25年 女性）。
- ・大人はもちろん、学生達も学校の部活等ではないため全員揃

- うことが、なかなかできない所、その為、本番前は練習回数を増やしたりしますが、本番でやっと全員が揃うということもありました（指導歴20年 女性）。
- ・皆で曲をつくる以上、個々の役割に応じた責任感が生じるが、そういったものの養成がメリットと思っていたが、部活動で各自に生じる責任としては重いと捉えられることが多くなり、2週間に30分程度の練習で完成を求められるようになってしまったこと（指導歴11年 男性）。
- ・耳の聞こえない方へのタイミング指導→小節数を指文字で行うこと。強弱など音楽要素も手話を用いて行う（指導歴17年 男性）。
- ・高校3年生が引退の時期になり、メンバーが不足する時期の演奏会直前に、病気などで直前にメンバーが欠けると分かった時のやりくりが大変です。男子メンバーに低音パートを担当させたいのですが、男子は遠慮気味で部員集めに苦労しています（指導歴不明 女性）。
- ・派手な曲や人受けする曲に心がうばわれないようにすること、清澄な響きを大切に、美しい響き、滑らかな動きを求めること、また、それらのことを次の代の指導者に受け渡すこと（指導歴24年 男性）。
- ・入部してくれた暁には、良い思いをしてもらえるように、私ができる限り頑張る。いろいろなオファーに対して、一応ふるいに掛けて学生に話す、最終的には原則、学生の意見を聞き決めるようにしている。もしそのための練習が大変なことになっても、自分たちで決めた事には責任を持ってもらう（指導歴23年 女性）。
- ・音符にとどまらず、どんなイメージを持っているのか曲を絵にしてリンガーに描いてもらう。（幼稚園、高校生）（指導歴20年 女性）。
- ・特に学生でしたが、リズムを言葉に置き換えて理解させる。曲のイメージをできるだけ絵画的、映像的に伝える。音のイメージもわかりやすく、他の楽器の出す音色にたとえたりする。最終的に演奏する姿も音楽になるようイメージさせる（指導歴25年 女性）。
- ・今後は演奏や演奏会のノウハウは伝えずに、生徒が自主的に考えて高い意識をもって完成させる。ただし、2週間につき30分程度の練習のみとなってしまったため、部活動としての維持が困難となり、部員も激減してしまった。今まで工夫してきたことがすべて使えない状況で大変困っている（指導歴11年 男性）。
- ・本番、緊張することを想定したプチコンサート（社員の前で演奏）。自分たちのベルを大切にしよう、クリーニングも自分たちで行う（ベル磨き）。（指導歴17年 男性）
- ・ハンドベルは神様から与えられた楽器であると思いますので、神様を賛美するにふさわしい音色と音楽を奏でよう常に切磋琢磨していきたいと思います（指導歴30年 男性）。
- ・小学校で音楽専科を38年間指導してきましたのでいろいろな音楽指導法を考えてきました。その経験を生かし、楽譜、リズム、拍の取り方等工夫して指導しています（指導歴30年 女性）。
- ・中1にはまとまった時間をかけて、ベルの歴史やクワイアの目的、使命等を指導している。初期には姿勢や体づくり（体幹・バランス）に時間をかけ、水を入れたペットボトルでベルの動きに慣れさせてから、実際の楽器に触れさせるようにしている。また、毎回の練習の冒頭で、ベルの美しい動きを確認してから音を出すようにしている（合唱の発声練習のような段階を設定している）（指導歴24年 男性）。
- ・階名が読めない生徒もおりますので、大きな楽譜にベルの音名を書いて各々確認させています（指導歴6年 女性）。
- ・楽譜を読めなくても演奏できるのがハンドベルのよさでもあると考え、そのようなメンバーでも自分が音を出すタイミン

- グをつかみやすいよう、楽譜に色をつけたり、タイミングを数字で記入したりするなどの加工をするようサポートしています。ただ、そうしたとしても、曲を全体として捉えること、音楽の中で自分の出す音の役割がどのような役割をしているのかを理解して演奏できるようにもサポートしています(指導歴20年 女性)。
- ・低学年においては丸つけをして、学年が上がるにつれ、何もつけずに読めるようにしています(指導歴20年 女性)。
  - ・リズムを書かせたり、自分の音に印をつけさせたりしています(指導歴18年 女性)。
  - ・必要に応じて、カラー譜を作成したり、譜面ファイルをWaveファイルに変換したりして、見本音源として利用(指導歴11年 男性)。
  - ・一人一人のパート譜を作りかえるため、音符を数値化して楽譜をつくること。8分音符以上は楽譜への表記が難しいため細かい連符はアレンジしている(指導歴17年 男性)。
  - ・読譜が苦手な生徒も多いので、それぞれの楽譜に担当する音をマーカーで色付けをさせています(指導歴不明 女性)。
  - ・読譜教育を受けていない生徒がほとんどですが、音符にカラーペンで印をつけることはしないようにして読譜力をつけること、自分のパートだけではなく楽譜全体を見て理解して演奏するように努力しています(指導歴30年 男性)。
  - ・毎回の練習の前に、なるべく楽譜に目を通し、新しい発見をしたいと心がけている(指導歴24年 男性)。
  - ・楽譜は読めてもリズムが取れない人が多いので、自分なりの工夫をしています(指導歴30年 女性)。
  - ・経験者と初心者を交互に配置することや、年齢に応じてベルの重さには注意します。また曲によっては、低音に経験者または高学年や大人が担当して、中音域から高音にあるメロディーラインを初心者や低学年が担当して、歌う楽しさを経験できるようにアサイメントすることもあります(指導歴26年 女性)。
  - ・メロディーラインを担当する生徒は、しっかりとした音が出せる生徒に、低音域は重いハンドベルでもしっかりと振って響く音が出せる生徒が担当するようには気配りをします。また普段の練習曲においては、色々なポジションが体験できるようにもします。固定アサイメントにすることはほとんどないです(指導歴不明 女性)。
  - ・リンガーの個性を知り、個性を生かせるように行っています。可能な限り固定しないようにと考えますが、結果として固定化する傾向が大きくなります(指導歴30年 男性)。

- ・3段階(high, middle, low)で移動できる様決めている(指導歴30年 女性)。
- ・リハーサル後は、全員がリラックスできるよう出来栄ばかりにとらわれず、演奏への話はあまりしないで「楽しくいい演奏をしようね」と言うように心がける(指導歴10年 女性)。

以上のような記載文であった。指導における様々な工夫は、ハンドベル特有の限定された音に対する理解、やリズム感の育成の他、演奏者一人ひとりに気を配り、アサイメントでは適材適所の配慮や、本番に向けたメンタルを鍛える配慮など、様々な指導的側面があると言えよう。

## V. おわりに

ハンドベル指導における教育的配慮では「他者への配慮」に代表される行動的側面の学びが大きいと言えよう。これは、先行研究で明らかとなった在学中の学生の自己変容また、社会人生活におよぼす影響と同様であると言える。今後も「行動的側面」の視点を重要視し、ハンドベル演奏体験を通じて得られる人間的な成長を期待する授業展開の検討を進めたい。

## 謝 辞

今回の研究を進めるにあたり、快く調査に応じてくださった全国のハンドベル指導者の方々に深い感謝の意を表する。

## 文 献

- 岡田泰子(2014) ハンドベル演奏体験による自己変容について. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要, 15, 35-40.
- 岡田泰子(2016) 「ハンドベル」演奏体験が社会人生活におよぼす影響. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部紀要, 17, 67-72.



## Educational Considerations of Handbell Instructors in their Teaching of Handbell Performance

Yasuko OKADA

**Abstract** : This study explores the educational handbell instructors in their teaching of handbell performance. The method of investigation is a questionnaire survey of what handbell instructors consider to be educational. The survey results show that the behavioral aspects of the performers are particularly important to the instructors as denoted by words such as cooperation and coordination, accomplishment, a sense of responsibility, a sense of togetherness, and kindness to other performers. The study also suggests that these considerations may be associated with the behavioral change in students through their experience of performing handbells and consideration for others, as reflected in the results of a survey of past graduates.

**Keywords** : Handbell, Educational, Considerations, KJ method, consideration for others